

天竜川西鹿島地区河川利用推進事業 ～ミヤマシジミ～（国土交通省 浜松河川国道事務所）

ミヤマシジミについて

【目】チョウ 【科】シジミチョウ 【種】ミヤマシジミ

①ミヤマシジミとは

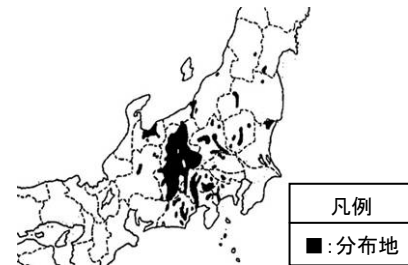
大きさは羽を広げた長さが約26～28mm(500円玉より一回り小さい)。日本には約350種のチョウがいますが、その中でもミヤマシジミは小型のチョウの仲間であるシジミチョウ科という分類に属しています。オスの羽の表の色は青色、メスは黒色をしています。



ミヤマシジミは貴重種に指定されています。
 環境省のレッドリスト : 絶滅危惧Ⅱ類(VU)
 静岡県のレッドデータブック : 準絶滅危惧(NT)

②ミヤマシジミの分布

ミヤマシジミの分布域は本州のみで、分布の中心は関東～中部地方の本州中部です。静岡県内では、富士山麓、天竜川、大井川、安倍川、興津川、富士川などの川原や荒地で確認できます。



③ミヤマシジミの生態

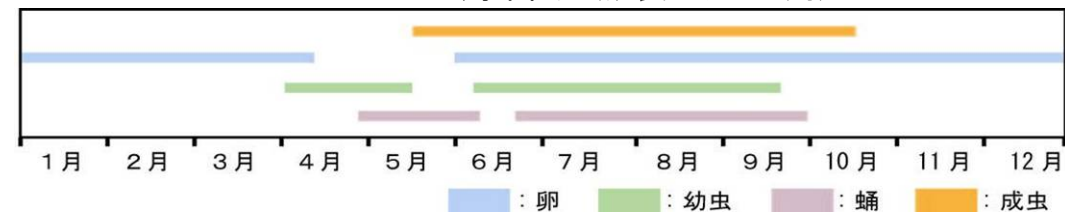
1匹のミヤマシジミが卵から成虫に至るまで春・秋は約2ヶ月、夏では約1ヶ月半を要します。ミヤマシジミの幼虫はコマツナギという決まった植物しか食べません。産卵もコマツナギに行われ、卵で越冬します。

ミヤマシジミの一生(春・秋の場合)



ミヤマシジミの成虫は、静岡県では5月中旬から10月中旬にかけて、年5回程度の発生を繰り返します。そのため、6月中旬～9月中旬は、卵・幼虫・蛹(さなぎ)・成虫がいつでも観察できます。

ミヤマシジミの周年経過(成長ステージ別)



④ミヤマシジミと似ているチョウ

静岡県には、ミヤマシジミと同じぐらいの大きさのシジミチョウで、特にミヤマシジミと間違えやすい種として3種(ヤマトシジミ、ルリシジミ、ツバメシジミ)が生息していますが、後の羽の裏側にオレンジの帯があるのはミヤマシジミだけです。



ミヤマシジミ(裏面)

オレンジ色の帯がある



ヤマトシジミ(裏面)

オレンジ色はない



ツバメシジミ(裏面)

オレンジ色はあるが帯ではない



ルリシジミ(裏面)



コマツナギに産卵

産卵



卵の大きさは直径が約2mmのまんじゅう型

卵



幼虫の大きさは3mm～25mm

幼虫



蛹の大きさは約20mm

蛹(さなぎ)